

西東京市

第3次基本構想

基本計画

2024~2033

(令和6年度~令和15年度)

ともにみらいにつなぐ
やさしさといこいの西東京



西東京市

西東京市

第3次基本構想

・

基本計画

2024~2033

(令和6年度~令和15年度)

西東京市市民憲章

(前文)

二十一世紀のはじめ、西東京市は、田無市と保谷市の合併によって誕生しました。わたくしたちのまち西東京市は、縄文時代の営みの跡や武蔵野の面影を残し、江戸時代から青梅街道の宿場町として栄えた歴史のあるまちです。

わたくしたちは、先人から受け継いだ貴重な遺産や自然の恵みに感謝し、市民ひとりひとりがいきいきと暮らせるまちを目指して、ここに市民憲章を定めます。

(本文)

このまちを たがいに助けあう 優しいまちにしたい
このまちを みどりに満ちた 美しいまちにしたい
このまちを ゆめの広がる 楽しいまちにしたい
このまちを こころ豊かな 学びあいのまちにしたい

平成十六年一月二十一日制定

ともにみらいにつなぐ

～第3次基本構想・基本計画の策定にあたって～

西東京市長 池澤 隆史



21世紀の幕開けとともに誕生した西東京市は、市民の皆様とともに歩み続け、23年が経過いたしました。人口も20万人を超え、大きく発展し、令和4年度に実施した人口推計調査の結果では全国的な人口減少が危惧される中、本市においては20年先も現状の人口を概ね維持する見込みとなっております。

一方、少子高齢化の進行や社会経済情勢等の変化、気候変動等に伴う自然災害に対する市民の生命や財産の安全・安心への備え、デジタル社会の進展に伴う利便性の高いサービス提供の仕組みづくり、更には、新たな市民ニーズへの対応など、これまでの取組とともに、既成概念や想定を超える変化に柔軟に対応できる新たなまちづくり、地域づくりが必要となっております。このような状況を踏まえ、次の10年のまちづくりを進めるための基本的な方向性を示すものとして、第3次総合計画（基本構想・基本計画）を策定いたしました。

新たなまちづくりにあたりましては、「学校が地域のキーステーション」であるとの認識のもと、学校を核としたまちづくりを進め、相談しやすい身近な窓口の設置や、日頃から住民同士が支え合える顔の見える関係づくりなど、地域の課題を地域で解決することのできる仕組みづくりを構築してまいります。

また、SDGsの理念を念頭に置きながら、誰一人取り残さない持続可能な社会の実現や、市民の皆様が健康で、一人ひとりが幸せを実感できるまちを目指してまいります。

これまで大切にしてきた「やさしさ」や「ふれあい」といった想いを継承しつつ、「住んでよかった」「住み続けたい」と実感していただける、夢と希望が溢れる西東京市を、市民の皆様とともに未来へとつなぐため、誠心誠意努力してまいります。

結びに、2年を超える議論を経て素案策定にご尽力いただきました総合計画策定審議会委員の皆様や、シンポジウムやアンケート等において貴重なご意見を賜りました、小・中学生をはじめとする多様な市民の方々、並びに市内企業・団体等の皆様、そして、様々な視点から議論を重ねご審議をいただきました市議会議員の皆様にご心より感謝申し上げます。

令和6(2024)年3月

中学生が描いた市民憲章をイメージしたイラスト

市立中学校の生徒の皆さんに市民憲章をイメージしたイラストを描いていただきました。

※ 10年後、西東京市がどんなまちになってほしいかのメッセージもいただきました。

詳しくは資料編 216～217 ページをご覧ください。

みどりに満ちた
美しいまち



『綺麗な緑は心も満たす』
荒井 真湮菜（青嵐中学校、2年）



『みどりのあふれる街』
斉藤 潤（田無第三中学校、2年）



『豊かな夢』
羽田 きお（保谷中学校、3年）

ゆめの広がる
楽しいまち



『市の中心』 高橋 朱和（明保中学校、2年）

たがいに助けあう
優しいまち



『わたしからあなたへ』
前田 葵（田無第一中学校、3年）



『駅前の平和』 前田 芽里（田無第二中学校、3年）



『いこいーなと浮かぶ、笑顔の西東京市』
清水 俊甫（柳沢中学校、3年）

こころ豊かな
学びあいのまち



『これはどう?』 坂巻 愛梨（田無第四中学校、3年）



『豊かなまち 西東京市』
遠山 楓（ひばりが丘中学校、2年）

市の沿革

西東京市は、平成 13 (2001) 年 1 月 21 日に、全国に先駆けた都市型合併の先進市として旧田無市と旧保谷市が合併して誕生しました。

旧田無市は江戸時代から青梅街道の宿場町として、そして北多摩地区の人々の生活を支える商業の拠点として栄えてきました。また、旧保谷市は、江戸時代に幕府の開墾対策の一環として新田開発された農村から、その後の都市化の進展と住宅開発により住宅都市として発展してきました。

新市発足後は、国や東京都から合併後のまちづくりへの支援を受け、新市建設計画で重点施策に掲げた西東京いこいの森公園の整備、コミュニティバス「はなバス」の運行、地域情報化の推進、ひばりヶ丘駅周辺のまちづくりの推進の 4 つの施策を着実に実行しました。また、全国に先駆けて市民参加条例を制定するなど、市民参加によるまちづくりに積極的に取り組んできました。

合併 10 周年を迎えた平成 23 (2011) 年には、将来に向けた新たな出発としてのさまざまな事業を展開する中で、多くの皆様の投票によって命名された西東京市マスコットキャラクター「いこいな」が誕生しました。その後、平成 29 (2017) 年には、人口が 20 万人を超え、「住んでよかった」「住み続けたい」まちを目指して、更なる発展を続けています。

市の木



けやき



はなみずき

市の木・市の花は、緑と自然を市民と行政が一緒になって守り、育て、潤いあるまちづくりを目指すためのシンボルとして、平成 16(2004)年 1 月 21 日に指定しました。

市の花



つつじ (春)



ひまわり (夏)



コスモス (秋)



すいせん (冬)

